



# 湖底の生き物調べ

活動のねらい ●琵琶湖の底に着目し、湖底の泥を採取して、泥の中に生息する生き物などについて調べる。	【時期】 通年
	【採泥場所】 湖岸 【観察場所】 学習室、3階甲板
	【時間】 30分～60分
	【準備物】 ●採泥器 ●バット ●ピンセット ●ルーペ ●ペトリ皿 ●ビーカー ●バケツ ●双眼実体顕微鏡 ●照明装置付簡易顕微鏡 ●「滋賀の水生動物」(図解ハンドブック)

## 主な活動の流れ

事前学習

- 地域の河川(用水路等を含む)の底に生息する生き物を調べる。

### 琵琶湖の底の生き物を調べてみよう。

フローティングスクール

- 湖岸で湖底の泥を採泥する。
  - ・担当者(教職員)が、採泥器を使い湖底の泥を採泥する。
  - ・予め採泥しておいてもよいが、学習時に採泥器を使った採泥方法を知る機会を設定してもよい。



- 泥の中の生き物を調べる。
  - ・泥の中に生息する貝などの生き物などを調べる。
  - ・ルーペや顕微鏡を使って、小さな生き物も調べてみる。



- 調べて見つけたことや、分かったことをワークシートに記入し、学習の記録をとる。

事後学習

- 泥の中の生き物と、水質との関係を考える。
- 自分たちの暮らしと琵琶湖の底とのつながりについて考える。
- 採泥器の仕様により、水深10mまでの採泥が可能。(「うみのこ」からは不可)
- 採泥は担当者が行う。栈橋などで児童が見学する場合、担当者は救命浮環を携帯する。

留意点

#### 【エクマンバージ採泥器の使い方】

主に浅瀬の海、湖沼の採泥および小型底生生物の採取に広く用いられている。使い方は、左右に開く試料採取部(バケツ)を左右に開き、掛金をかけて水中に静かに投下する。着底後メッセンジャーをロープにはめ込み落下させると、掛金が外れ、バネの力でバケツが閉じ、砂泥をすくい取る。



- 学習後の衛生面には留意し、児童の手等の洗浄、学習場所の後始末を確実にを行う。